

【中予地域：人、モノ、情報を駆使して広域的な牽引力を発揮する高機能圏域の形成を目指します】

〔地域の特性〕

中予地域は、重信川流域に広がる松山平野が、海岸部に穏やかな瀬戸内海を臨み、緩やかな丘陵が緑を彩りながら、山間部の石鎚国定公園へとつながるなど、豊かな自然や美しい景観に恵まれています。

中予地域は、本県の人口の4割強の人口を擁し、その中核都市である松山市では人口集中が進む一方、久万高原町をはじめとする山間部、島しょ部では過疎化・高齢化が急速に進行しています。

松山市を中心とする都市部は、県内随一の商業機能に加え、医療、教育、文化、スポーツ等の施設が集積し、県内最大の観光地である道後温泉をはじめとして歴史や文学にまつわる観光資源が数多く存在しています。

また、美術館や博物館などの文化拠点施設を中心に幅広い文化活動や交流が行われており、本県の産業や観光、文化など様々な分野のリーディングゾーンとなっています。

産業面では、化学繊維、一般機械、健康・医療機器、食品加工などの大手製造業や、これを支える中小関連企業のほか、県内の情報サービス業の大半が立地するなど多くの産業が集積しています。

一方、農林水産業を主たる産業とする地域においては、紅まどんな、せとか、キウイフルーツ、栗などの果樹、高冷地特有の気候を活かし環境に配慮したトマト、ピーマンをはじめとする高原野菜や高原育ちの清流米、媛っこ地鶏などの多様な農畜産物、豊かな森林資源を活かした木材、シラスやハモなどの水産物など、地域の特色ある農林水産物も盛んに産出されているほか、豊かな自然と美しい景観は、観光資源として高いポテンシャルを有しています。

〔地域の課題〕

中予地域では、行政機関や企業、大学等の教育機関が松山市を中心とする都市部に集積するという特性を活かし、地域間競争が激化する中、中予地域のみならず、愛媛全体の活性化を牽引する新たな取組みが求められています。

また、空や海の玄関口を持つ地域特性を一層発揮し、これまでの観光資源に加えて、新たな観光手法の推進などに取り組むとともに、島しょ部等において開催した「瀬戸内しまのわ2014」の効果を中予地域全域に波及させるための施策を効果的に展開する必要があります。

松山市を中心とする都市部では、公園や下水道施設の整備、道路の渋滞の解消や歩行者等の安全確保など、都市機能の強化に加え、多様な水源の確保など水資源対策が急務になっているほか、都市近郊の豊かな自然環境の保全と環境に関する理解の促進が課題となっています。

一方、急速な高齢化や人口減少が進展している山間部や島しょ部では、集落機能の維持や生産・生活基盤の確保、地域の振興、安全・安心の確保が大きな課題となっており、その解決のためには、依然として遅れている社会資本整備、地域福祉の推進、若者の定住促進のほか、集落とNPO法人やボランティアとの交流や協働、都市と農村の交流、都市部が有する高次的都市機能の活用など、新たな仕組みづくりが求められています。

県内人口の4割強を擁する中予地域では、大規模災害等が発生した場合、多くの住民に甚大な被害が及ぶことが想定されることから、行政、消防、医療など関係機関の十分な対応が今まで以上に求められています。

また、松山市など都市部に集中している救急医療機能を活かし、地域全体での安全・安心な地域医療の推進が求められています。

中予地域には魅力ある産業が数多くあるものの、情報発信が不十分であったり、地元消費者へ

のアピール度が低い農林水産物もあることから、新たな流通システムや新しい発想により消費者や異業種間の連携を進めるなど、さらなる活力ある産業づくりへの取組みが課題となっています。

〔地域振興の基本方向〕

1 人・モノ・情報のネットワークづくり

産学官連携による人材の育成

行政機関や企業、大学等の教育機関が中予地域に集積している強みを活かして、これからの愛媛を力強く牽引する人材を育成するとともに、人材育成・活用ネットワークを構築し、新たなイノベーションの創出や産業技術への応用につなげます。

交流による魅力とにぎわいの創出

農山漁村でのグリーン・ツーリズムや石鎚山系等でのエコツーリズムの定着、団体旅行から個人旅行への観光形態の変化、外国人観光客の増加、中山間地域へのアクセス網の整備、さらにはサイクリング、ランニング、ウォーキングなどのスポーツを通じた健康志向の高まりなどを踏まえ、中予地域にある自然、歴史、文化、施設などの地域資源を広域的に結んだ体験型観光・交流ルートやサイクリングコース等の充実・PRに努めます。

また、産業観光やヘルスツーリズムなど、新たな手法の観光の推進に取り組むとともに、島しょ部等で開催した「瀬戸内しまのわ2014」の成果を中山間地域をはじめとした中予全域に波及させます。

これらの施策をはじめ、異なる分野の交流により新たな価値や活動を生み出す施策を展開して、さらなる魅力とにぎわいの創出につなげます。

○ 自転車新文化の推進による地域活性化

中予地域の「愛媛マルゴト自転車道」について、子どもから大人までが一緒にサイクリングを楽しむことができるコースの充実を図るとともに、関係市町等と連携して自転車道10コースの利用促進に取り組むなど、サイクリングを活用した地域活性化を推進します。

2 県民が快適に生活できる環境づくり

都市機能の強化や地域活性化を支える社会資本整備の充実

県都を抱える中予地域の都市機能を高めるため、松山外環状道路やJR松山駅付近連続立体交差事業など交通ネットワーク整備に重点的に取り組むとともに、過疎化・高齢化が著しく進展している山間部・島しょ部においては、高速交通網とのアクセス向上や地域生活道路の充実など遅れている社会資本の整備や生活交通の維持確保に努め、その活性化を図ります。

市町と連携した魅力ある地域づくりの推進

都市部と山間部・島しょ部が併存する中予地域の特性を活かし、人、モノ、情報等の交流・連携を通じて、移住者等の定住・起業支援など地域を支える人材の育成・確保をはじめ、地域活動の活性化や集落機能維持に向けた取組みを支援するなど、市町とも連携しながら、魅力ある地域づくりを進めます。

環境に優しい地域づくりの推進

松山市を中心とした都市部における身近な環境問題への理解促進と、快適な都市空間の形成を図るため、中予地域の事業者等と協働し、3R活動など資源の循環的利用と廃棄物の減量化、適正処理に取り組むとともに、適正処理の啓発・指導にも取り組みます。

また、都市近郊や中山間地域において、森林や水田等の適正な管理・保全を進めるとともに、その水源かん養等の多面的機能を活かした地域ぐるみのため池環境再生などに取り組みます。

支え合う福祉社会づくりの推進

人口が集積する中予地域では、高齢者、障がい者、子どもの福祉分野における多種多様な課題

が山積しているため、住民やボランティア、NPO、各種団体、企業など、地域の多様な主体が協働して、高齢者や障がい者、子どもが安心して愛顔^{えがお}で暮らせる地域づくりに取り組みます。

特に、産・学・官が連携し、文化活動を通じた障がいのある人とない人との交流の拡大により、障がいに対する理解促進を図ります。

また、大学や研修施設が集積している強みを活かして専門性のある研修事業を実施するなど、人材の育成を進め、福祉サービスの向上につなげます。

3 県民の生命・財産を守る体制等の整備

地域の防災力強化

本県の4割強の人口を擁する中予地域においては、地震等大規模災害が発生した場合、多くの住民に甚大な被害が及ぶことが想定されることから、行政、消防、医療、自主防災組織等の防災関係機関が連携して防災体制の強化を図るほか、自主防災組織のリーダーとしての防災士の養成や積極的活用、産業基盤の保全、防災施設の整備、住宅の耐震化など、災害に強い地域づくりに取り組みます。

質の高い医療提供体制の充実

地域としての総合的な医療体制を確保するため、都市部に集中する医療機能の活用により山間部や島しょ部の医療体制の補完を図るほか、救急医療体制の維持・確保や、かかりつけ医と二次医療機関等との医療連携に取り組むとともに、軽症患者における救急医療の適正利用に向けた県民の意識啓発に努めます。

また、今後増加が見込まれる認知症患者への早期診断・早期対応のため、医療福祉等の地域連携促進に取り組むとともに、糖尿病や心臓病等の全身疾患と関係の深い歯周病を予防するため、特に、壮・中年期を対象として、歯科検診や歯石除去等の受診率アップに努めます。

食の安全・安心の強化と消費者の自立支援

食品流通の広域化・複雑化に伴う食に対するリスクの高まりや、依然として多く発生している悪質商法などの消費者トラブルに対応して、関係機関と連携しながら、相談・監視体制の強化と消費者の教育と自立支援に取り組みます。

4 活力ある産業づくりの推進

○ 営業力の強化による愛媛産品の販路拡大

「スゴ技」「すご味」「すごモノ」のデータベースにつながる新しい技術や商品等の発掘、情報収集に努め、市町や関係機関等と連携して、中予地域に根差した愛媛産品の販路拡大を支援します。

産業を担う人づくりと企業誘致の推進

次代を担う若者と、中予地域に数多く存在する魅力ある地域産業や農林水産業等との触れ合いの機会を提供し、若年期から相互理解を深めるとともに、女性の起業や再就職等を支援することにより、中予地域の産業を担う人材の育成・確保や雇用のミスマッチの解消につなげます。

また、市町や関係団体と連携しながら、先端素材関連産業や情報サービス関連産業などが立地する中予地域の特性を活かした新たな企業の誘致にも取り組みます。

魅力ある商店街づくりの推進

大消費地を抱える中予地域では、魅力次第で商店街の集客力を高めることが可能であることから、商店街でのにぎわい創出や地域コミュニティ機能を強化し、商店街に商品販売の場としての役割だけでなく、社会的・文化的な情報発信や地域コミュニティの担い手としての役割を持たせるよう支援し、郊外店に匹敵する魅力ある商店街づくりにつなげます。

魅力ある農林水産物の競争力強化

県内最大の消費地である松山市を抱える地域特性を活かして、中予地域の魅力ある農林水産物を活用し、農林水産業者と商工業者等の連携や6次産業化を支援しながら、地産地消の推進と生産者の所得向上に取り組むほか、農林水産業の経営基盤強化を図るため、経営の自立に向けた取組みを支援します。

中山間地域農林業の活性化の推進

耕作放棄地が増加している中予地域の中山間地域農林業の活性化を図るため、新たな生産技術の速やかな普及や、鳥獣害防止対策、農・林業生産基盤整備、放牧の推進など、総合的な対策に取り組めます。

また、集落機能の維持や生産・生活基盤の確保のため、高齢農業者が栽培しやすい作目の導入と普及に加え、道の駅等の直売所の有効活用や都市と農村の交流を通じた地域農業の活性化を促進します。

森林資源の活用

豊富な森林資源を有する中予地域の中山間地においては、これまで育ててきた森林資源を活用していく時代を迎えており、間伐に加えて主伐の計画的な導入やC L Tの普及促進により、木材の安定供給から加工販売までの総合的な取組みを推進し、成長産業への育成を目指します。